

<日本史探究> 室町時代② 【問題編】

問1 次の文章の下線部に関連して、この時代に南北朝の合体にも功績があり、周防・長門など6か国の守護であったが、応永の乱を起こして敗死した有力守護大名は誰か？（明治学院大改）

莊園や公領を自らの所領の領主が年貢の徴収を守護に請け負わせることも頻繁に行われるようになった。そのため、守護のなかには一国の支配権を確立するものが出てくるようになり、彼らは守護大名と呼ばれることもあった。 ( )

【解説】 (2) の③

1399年に、周防・長門など (A ) 六か国の守護大名であった (B ) は、(C ) の足利満兼と結んで和泉国堺で反乱を起こしたが、(D ) の討伐を受け、敗死した。この乱のことを (E ) という。

問2 次の出来事あ～うを古い順に並べたとき、正しいものはどれか？（早稲田大商改）

あ 永享の乱      い 上杉禅秀の乱      う 結城合戦      (      →      →      )

【解説】 (2) ④～⑥

1408年に義満が没すると、朝廷から「太政法皇」の尊号が贈られたが、これを後継者である (A ) が固辞した。また、1416年には前関東管領の (B ) が反乱を起こし、4代鎌倉公方の (C ) に討伐された。これを (D ) という。

その後、(E ) が6代将軍となり、鎌倉公方の (F ) の反発を受けた。Fを関東管領 (G ) がいさめて対立して、(H ) 年、EはGを支援して討伐軍を送り、翌年にFが自害して、この (I ) は終わった。

このIの後、Fの遺臣である (J ) が遺子である春王丸・安王丸を擁して反乱を起こしたが、鎮圧された。これを (K ) という。

問3 侍所は室町幕府が設置した機関だが、これに関して述べた次の文X・Y・Zのうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロを入れよう。（早稲田大商改）

X 役割がやがて検非違使に取って代わられた。 (      )

Y 京都内外の警備にあたった。 (      )

Z 長官は、赤松・一色・山名・今川の4氏から選ばれるのが慣例だった。 (      )

【解説】 (1) の③

X 検非違使は、9世紀初め、(A ) が設置した宮中の治安維持にあたった機関で、やがて都の警察裁判権をつかさどる要職となったが、室町時代に入り、幕府の警察・裁判権が強化されるに伴い、検非違使は (B ) に機能や権限を吸収され、消滅するので (C ) 。

Y 侍所は、室町幕府の武士の統率機関。そのほか、京都の警備・刑事訴訟も扱ったので (D ) 。

Z 侍所の長官のこと (E ) といい、(F ) と呼ばれた (G ) ・ (H ) ・ (I ) ・ (J ) の4氏の中から任命されたので、(K ) 。

問4 次の(1)～(3)の文章を読み、設問に答えよう。(同志社大 グローバル地域文化 改)

(1)足利義満は、南北朝の動乱の中で力をつけた有力守護の弱体化を図り、全国的な統一政権としての幕府の機構を整えていった。将軍を補佐し、政務を統括する役目をもつ(あ)は、足利一門の細川氏・畠山氏・(い)の3氏から交代で任命された。(あ)は政所・(う)などを統轄するとともに、将軍の命令を諸国の守護に伝達した。将軍を支える軍事力の整備も進み、古くからの足利氏の家臣、守護の一族、地方の有力武士が集められ、(え)と呼ばれる直轄軍が編成された。

(設問1) 下線部の動きに関係する事件名と討伐された人物の組み合わせとして正しいものを次から一つ選ぼう。

<明徳の乱ー細川頼之／応永の乱ー大内義弘／明徳の乱ー今川貞世／応永の乱ー高師直>

( )

【解説】 (2) の②

- ・細川頼之：(A )として幼少の(B )を補佐した人物。
- ・大内義弘：周防・長門などの6カ国の守護大名で、朝鮮との外交・貿易の独占による富強を恐れた将軍Bに警戒され、関係不穏となり、堺に籠城して(C )を引き起こしたが敗死。
- ・今川貞世：1371年、(D )に就任し南朝勢力を制圧した。1399年、大内義弘・鎌倉公方足利満兼との共闘(C)を試みたが失敗した。翌年、Bに追討され隠退した。

『E 』を著した人物。

- ・高師直：足利(F )派の武将で、執事として権勢をふるった。のちにFの弟の(G )と対立し、(H )で敗死した。

(設問2) 空欄(あ)～(え)に入る適切な語を漢字で答えよう。

あ：( )／い：( )／う：( )／え：( )

(2)幕府の地方機関のひとつである鎌倉府は、尊氏がその子基氏を鎌倉公方として開かせたもので、以後基氏の子孫が受け継ぎ、これを補佐する関東管領は上杉氏が世襲した。鎌倉府は大きな権限をもち、京都の幕府としばしば衝突を引き起こした。

(設問3) 下線部に関連して、15世紀には鎌倉公方足利氏と関東管領上杉氏との間にしばしば政争が起こった。特に次の4つの事件がよく知られているが、これらの発生を時代順に並べよう。

<あ 結城合戦／い 上杉禅秀の乱／う 明徳の乱／え 永享の乱>

( → → → )

【解説】 (2)

1391年、将軍(A )の挑発を受け、六分一殿と称された(B )は京都に兵を進めたが敗れた。これを(C )という。

1416年には前関東管領の(D )が反乱を起こし、4代鎌倉公方の(E )に討伐された。これを(F )という。

その後、(G )が6代将軍となり、鎌倉公方の(H )の反発を受けた。Hを関東管領(I )がいさめて対立して、(J )年、GはIを支援して討伐軍を送り、翌年にHが自害して、この(K )は終わった。

このKの後、Hの遺臣である(L )が遺子である春王丸・安王丸を擁して反乱を起こしたが、鎮圧された。これを(M )という。

(3)6代将軍足利義教は、将軍権力の強化を狙った専制的な政治を行い、有力守護を謀殺するなどの弾圧を続けた。こうした中、所領問題で義教に対して不満を抱いていた（あ）父子が、義教が自宅に招いて謀殺した事件が起きた。これを（い）という。

（設問4）空欄（あ）・（い）に入る適切な語は？

あ：（ ） い：（ ）

問5 次の文章の空欄（あ）～（お）には入る適切な語は？（松山大改）

室町幕府の財政は、（あ）からの収入、守護の分担金、地頭・御家人に対する賦課金などでまかなわれた。そのほか、土倉や酒屋に（い）・（う）を課し、交通の要所に関所を設けて（え）・（お）を徴収した。

あ：（ ）／い：（ ）／う：（ ）

え：（ ）／お：（ ）

【解説】（1）の④・⑤

室町幕府の財政基盤の一つに（A）と呼ばれた直轄領からの収入があったが、このAの管理を委ねられた職が幕府の直轄軍である（B）であった。徴収した税は、この問題文のほかに、田畑一段ごとに賦課された税である（C）や家屋の棟数に応じて賦課された税である（D）がある。

問6 次の文章を読み、下記の設問に答えよう。（北海道大改）

1340年代前半、（あ）天皇の冥福を祈るための（い）寺の造営費を稼ぎ出すべく、室町幕府は中国の（う）朝へ貿易船2隻を約10年ぶりに派遣することを決定した。この貿易船を主導したのは、足利（え）の弟直義であった。

（設問1）空欄（あ）～（え）に当てはまる語を答えよう。

あ：（ ）／い：（ ）／う：（ ）／え：（ ）

（設問2）下線部について、「（い）寺」の開山は、（あ）天皇や足利（え）らの帰依（信仰）を集める臨済宗の僧であったが、それは誰か？（ ）

【解説】（3）の①

鎌倉時代には、執権北条（A）の時代に、（B）修造の費用を得ようと、同じく（ ）にB船を派遣した。

問7 次の文章を読んで、以下の設問に答えよう。(獨協大改)

(1)14世紀になると、東アジア諸国では政治が混乱した。海上の秩序も乱れ、略奪行為を行う(あ)の活動が活発化した。

(設問1) 空欄(あ)には入る語は? ( )

(設問2) (あ)に関する記述として、適当でないものを選ぼう。( )

A 前期(あ)は対馬・壱岐・肥前松浦などを拠点とする人々が多かった。

B 前期(あ)は主に朝鮮半島や中国北部の沿岸部で活動した。

C 後期(あ)の活動範囲は広がり、中国南部の沿岸部にも及んだ。

D 後期(あ)による被害もあって高麗は滅んだ。

【解説】 (3)の②・③&(5)の②

(A )は、13~16世紀、朝鮮・中国沿岸で米・人間などを略奪したり、密貿易を行った武装集団で、前期Aと後期Aがある。前期Aは、(B )を拠点に、活動した武装集団で、主に(C )沿岸を侵寇、米や人間を略奪したが、足利(D )の九州制圧、日明貿易開始とともに沈静化した。

一方、後期Aは、(E )貿易が廃絶した16世紀半ば、明の(F )政策に反して(G )で密貿易を行った武装貿易集団であった。構成員の大部分が(H )人であり、豊臣秀吉の海賊取締令で衰退した。

(2)1368年に成立した明は、(あ)の取り締まりや中国を中心とする国際秩序の再構築を目指し、近隣の諸国に通交を求めた。これを知った足利(い)は明に僧の(う)と博多商人の(え)を派遣して国交を開いた。しかし15世紀後半になると、幕府の衰退が顕著となり、貿易の実権は博多商人と組んだ(お)氏らの手に移った。

(設問3) 空欄(い)~(お)に入る語を答えよう。

い:( ) / う:( ) / え:( ) / お:( )

(設問4) 下線部に関連して、日本と明との貿易についての記述として、適当なものを選ぼう。

A 日本からの貿易船は、幕府が交付した勘合の持参が義務づけられた。( )

B 貿易は利益があったが、滞在費や運搬費などは日本側が負担した。

C 将軍足利義満により貿易は一時中断され、足利義教のときに再開された。

D 日本は銅や硫黄などを輸入し、生糸や高級絹織物などを輸出した。

【解説】 (3)の④・⑥・⑦

日明貿易は、(A )形式の貿易だったため、滞在費や運搬費など全て(B )側が負担した。そのため、(C )側の利益が大きく、主に(D )が輸出され、(E )が輸入された。

足利義満の死後、4代将軍足利(F )は( A )形式に不服として貿易を中断したが、6代将軍足利(G )は貿易の利益を求めて再開した。

(3)14世紀末からは、朝鮮との貿易も盛んに行われた、日朝貿易には最初から幕府のみならず守護や商人なども参加した。朝鮮側は貿易港を定めて倭館を開き、多くの日本人を居住させたが、この日朝貿易も16世紀前半に（ か ）が起こった後は、その規模が縮小した。

(設問5) 空欄（ か ）に入る反乱は？（ ）

(設問6) 下線部について、朝鮮が日本人の居留・貿易を認めた3港を答えよう。

（ ）・（ ）・（ ）

問8 次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問に答えよう。（同志社大改）

(1)日本と中国の間には、13世紀後半のモンゴル襲来後も正式な国交はなかった。しかし、両国の民間貿易船に行き来は断続的に続いていた。14世紀半ばになると、東アジア各地で反乱が起こった。その結果、中国では元から明へ、朝鮮半島では1392年に（ あ ）から朝鮮（李朝）へ王朝が交替した。

(設問1) 下線部明を建国した人物は誰か？（ ）

(設問2) 空欄（ あ ）に入る国は？（ ）

(2)この混乱した政治的な状況のなかで、食料や労働力の獲得などのため、中国沿岸部や朝鮮半島を襲撃する（ い ）が現れた。（ い ）はその全てが日本人であったとは限らず、時期や地域によってその構成員は様々であった。実際、中国に出自を持つ者もいたため、明は（ う ）政策により海外渡航や海上交通を禁止した。その一方で、周辺諸国からの朝貢使節に対しての貿易の機会を与えた。こうすることで、中国沿岸部の治安は徐々に回復し、明は（ い ）の活動を抑え込んだ。

(設問3) 空欄（ い ）・（ う ）に入る語を答えよう。

い：（ ）／う：（ ）

(3)明への朝貢使節が本物かどうか確認するために導入された手法が（ え ）である。日本の遣明船1隻が（ え ）1枚を携え、入港する場所や皇帝に拝謁する場所で（ え ）上の割印や割書を照合して真偽を確認し、正式な使者と認められれば、貿易が許される仕組みである。15世紀初め、日本には「（ お ）」に冊封された足利義満に永楽年号の（ え ）100枚が賜給された。

(設問4) 空欄（ え ）に入る語は？（ ）

(設問5) 空欄（ お ）に入る、中国との国交を開くために足利義満が中国の皇帝から得た称号は何か？その名称を漢字4字で答えよう。（ ）

【解説】(3)の⑤

「（ A ）」とは、中国の皇帝から冊封を受け、臣従した日本国のトップの称号である。Aと認められることで、朝貢貿易としての勘合貿易が可能になった。

※冊封：中国の皇帝が周辺諸国に首長に対して称号などを与え王に任命して、周辺諸国を従属させること

(4)朝鮮(李朝)は、( か )年に( き )が樹立した王朝である。朝鮮は室町幕府に対して( い )の取り締まりを要求したが、あまり成果はあがらなかった。そこで朝鮮は、対馬・五島列島・博多などを拠点とする( い )勢力に朝鮮との貿易を許可し、平和的な通交関係を構築した。その結果、様々な勢力が朝鮮に使節を送って友好的な貿易をおこなうようになった。それでも貿易制限によって( い )が再発すると、1419年朝鮮が( い )の本拠地とみなした対馬を襲撃する( く )も起こった。

(設問6) 空欄( か )～( く )に入る語句は？

か：( ) / き：( ) / く：( )

(設問7) 下線部に関連して、この当時の朝鮮からの主要な輸入品となった織物で、衣料など人々の生活様式に大きな影響を与えたものは何か？その名称を漢字2字で答えよう。( )